文教大学情報学部 社会調査Ⅲ研究報告

ペットによる効果

２０１１年2月

情報学部 広報学科 3 年

中村　遼

目 次

第１章　調査研究の概要

１．１　調査研究の目的と背景　・・・・・・・・・・・・・ ２

１．２　調査に関する状況　・・・・・・・・・・・・・ ２

１．３　調査研究の方法　・・・・・・・・・・・・・ ４

（１）　進捗経緯

（２）　調査の概要

１．４　成果の概要　・・・・・・・・・・・・・ ６

（１）　主な成果

（２）　その他の成果

第２章　研究の成果

２．１　調査回答者の概要　・・・・・・・・・・・・・８

２．２　ペットと癒し　・・・・・・・・・・・・・９

２．３　ペットと家族　・・・・・・・・・・・・１４

２．４　ペットとコミュニケーション　・・・・・・・・・・・・１７

第３章　まとめと今後の課題　・・・・・・・・・・・・２０

参考文献　・・・・・・・・・・・・２０

単純集計表　・・・・・・・・・・・・２１

第１章　調査研究の概要

１．１　調査研究の目的と背景

ペットブームの勢いが止まらない。１９９０年代に日本人のペットに対する意識が大きく変化した。犬登録件数（純粋犬種の犬登録）、犬用ペットフードの流通量、ペット関連支出額のいずれもが、この時期に増加している。ペットビジネスハンドブックによるとペット関連のビジネス市場規模は現在、一兆円を終えると考えられている。実際のペット販売業だけでなく、ペットフードや動物病院、ペットホテルなどの分野も成長が続いている。

これまでの犬はただ貰い受け、番犬として玄関先で生活し、人の残飯を食べていた時代から、消費の対象となった。このような急激な変化は人と犬の関係にとってさまざまな影響を及ぼしている。また、少子高齢化や単身世帯の増加、社会的ストレスの増大などを背景に、ペットを「コンパニオン・アニマル（伴侶動物）」として家族同様に扱い、ペットに“癒やし”を求める傾向が強まってきている。

コンパニオン・アニマル，いわゆるペットの“癒し”の効果が話題となっている。ペットの癒し効果については、人と動物が関わることによる心理的，社会的，身体的な効果を期待する行為と考えられる。孤独感が癒され，友情や安心感がもたらされ，世話をすることによって自己効力感が高まるなど、多数の効果が報告されている。

私自身も、小さな頃から、犬、猫、うさぎなどのペットを飼育してきた。そこで、ペットに癒されたり、ペットに愛情を注いできた。そこで、ペットによって得られる効果はどのようなものがあるか興味を持つようになり、この調査を行うことにした。

人と動物が関わることによる心理的, 社会的, 身体的な効果を期待する行為があると考えられ、ペットブームにおいて、人はどのようなペットを飼い、ペットに何を求めているのか。今後ペットと人との関係はどうなっていくのかを探る。

１．２　調査に関する状況

JGSS-2000 のデータによると、現在、男女とも 4 割近くが何らかの動物を飼っている。年齢別にみると、40 代と 50 代で飼育率が高く、住宅形態では、一戸建て住宅で飼育率が高い。ペットの種類は犬が最も多く、次に多いのは猫である。ペットを飼う理由は「家族が動物好きだから」が最も多いが、「気持ちがやわらぐ（まぎれる）から」の割合が近年高まっている。また、ペットを家族の一員とみなす傾向も近年高まりつつある。

わが国では，家族の一員としてペットを飼う家庭が増えてきているようである。石原（2000）によると，社会福祉従事者1000人以上の全国規模の研修で「愛情を込めて育てているペットと飼い主との関係は家族だと思うか」という質問に対して，「家族だ」が36%，「どちらか

といえば家族だ」が29%で，65%が家族と認識していた。特殊な職業集団というサンプリングの問題はあるとしても，ペットの家族化が裏付けられると考えられる。

おそらく現代の人たちにとっては「ペット」は「長男」や「末っ子」といったような家族の構成員を指すものなのだろう。この背景には少子化や核家族化が一役買っているのではないか、昔は一家族が大人数であったためペットなどを飼う余裕がないが、犬などがいたとしても庭や玄関先などの屋外で飼育されていた。熱狂的なペット好きは「子供がゼロ」または「子供が二人」が多く、「子供が三人以上」はほとんどいない。子供がおらずに自分とペット、あるいはペットと夫婦だけというケースも少なくない。

その他に、ペット依存とメディア利用の研究からは、ペット依存グループと非ペット依存グループ間でのインターネットの利用内容について調べた。これを見るとインターネットで「SNS やブログ」を活用する人ほどペットに依存する傾向があると言えるだろう。

現代人のストレスの、要因の一つに言葉によるストレスがある。傷つく言葉、落ち込む言葉にさらされ、疲れきっている人たちには無意識ながら「言葉のない世界へ行きたい」と思っていることもある。そのような人たちにとって言葉は話さないがあたかも言葉の一部を理解しているかのように反応してくれるペットが最高のコミュニケーション相手である。彼らは、「話さないからこそ」「話さないがそれなりに反応があるからこそ」人間にとっては都合がよい。

仮説

主な仮説、調査項目、結果として主張できること

・癒し効果

ペットを飼うことによって癒しを得ている

孤独感が癒される

ペットを相手に話すことで、対人関係の疲れが癒されることも多い。

ペットを擬人化している。

→服を着せる

→一緒の布団で寝る

心に余裕がないときほど動物に夢中になる。

ペットを通して，自己の存在価値を高める

ペットはそれなりの重要性を持ったコミュニケーション対象でありうる。

→ペットを媒介として他者とのコミュニケーションが良好になる

→家族間の関係をとりもつ

・ **家族とペット**

家族人数が少ないほど「家族の一員としての存在」とする傾向が高い

家族の中で一番近い存在をペットとする人が多い。

室内での飼育のほうが「家族の一員としての存在」要素が高い

少子化、晩婚化、単身世帯の増加などによりペットブームが起こっている。

集合住宅より一軒家のほうがペットを飼っている人が多い

子供の年齢や有無がペットの存在感に及ぼす影響では重要

子供が３人以上だとペット飼育家庭が少ない。

熱狂的なペット好きは「子供がゼロ」または「子供が二人」が多く、「子供が三人以上」はほとんどいない。

ペットを飼うことで家族関係が良好になる

・ **メディア効果**

ペット依存が高いほどネットの利用が多い

SNS の利用頻度が高い

愛好者は非愛好者より人付き合いが良い

→ペット依存が高いほどメール数が多い

１．３　調査研究の方法

（１）　進捗経緯

４～５月　調査テーマ討論

６月　調査テーマ決定・調査テーマ具体化

７～９月　討論・調査票作成

１０月　調査票完成・学内での調査実施・回収・集計

１１月　単純集計結果報告

１１～３月 報告書作成

（２）　調査の概要

a.調査の意図

・ ペット飼育の有無

・ ペットによる影響

・ ペットの癒し効果

・　家族とペットの関係性

・　ペット飼育の有無とメディア利用

b.調査対象者

文教大学湘南キャンパス学生(１～４年生)

c．調査方法

授業時間内に配布・回収

d．主な質問項目

・　・ペット飼育経験の有無

・　動物の種類、こまかな種類

・　飼育期間

・　飼育理由

・　非飼育理由

・　飼育費用

・　ペットを飼うことによっての影響（利害・問題）

・　SNS の利用

・　インターネット利用時間

・　一日のメール数

・　兄弟・家族人数

・　住居形態

e．配布（依頼）回収数

コンピュータと通信　１７　村井ゼミ　１６　藤掛ゼミ　１６

出版論　４１　時事英語B　２８　その他学内　２０

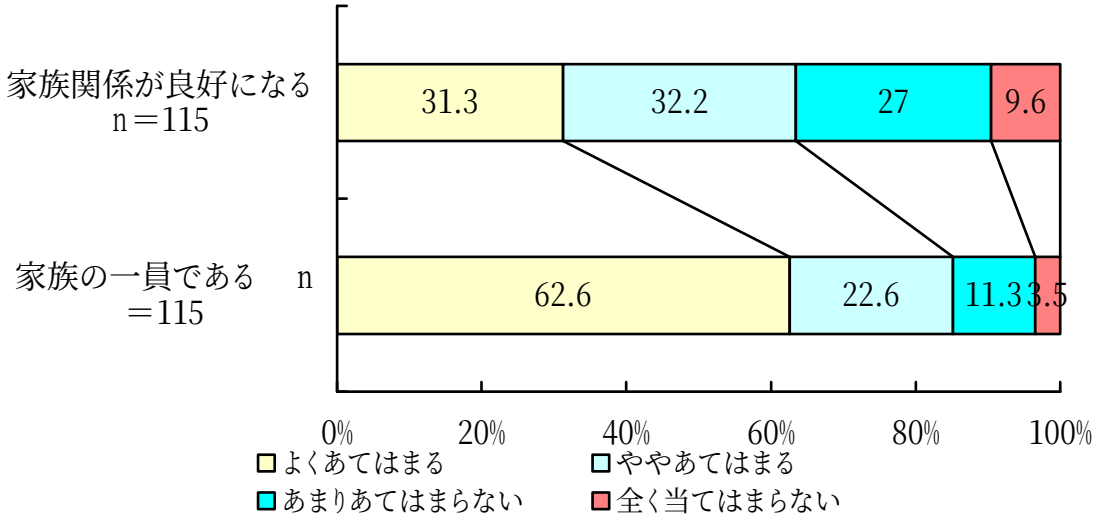
計 配布数１３８ 無効票０

１．４　成果の概要

（１）主な成果

（a）ペットと家族

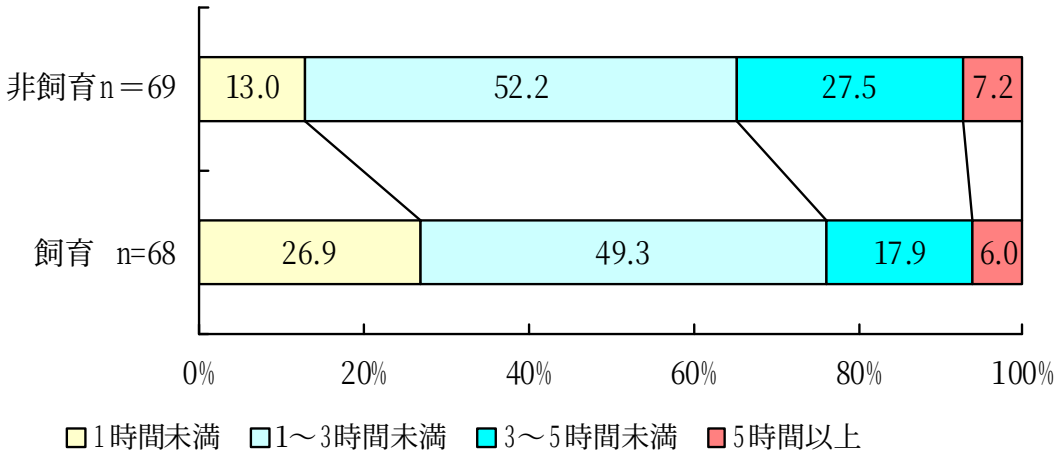
図１－４－１　　ペットと家族



「家族の一員である」「家族関係が良好になる」は効用感があることがわかる特に「家族の一員である」は効用がみられる、よくあてはまる・ややあてはまるを足すと 80%以上を超えており大半がペットを家族の一員とみなしている。また、「家族関係が良好になる」から、よくあてはまる・ややあてはまるで約 60%と効用が見られ、ペットは家族間の関係をとりもつということが言えるのではないか。

（b）現在の実家での飼育の有無とインターネット利用時間

図１－４－２　　実家での飼育とインターネット利用時間



現在の飼育状況とし、飼育・非飼育グループに分ける。非飼育と現在非飼育を飼育グループ、

現飼育を飼育グループと分けた。

飼育では、インターネット利用時間には有意差がない。

どのグループも１～３時間が約 49%～約 52%と最もおおくなっている。１時間未満では飼育グループが約 27%、非飼育グループが 13%と飼育グループが多いことがわかる。両グループ共に、５時間以上では、あまり差はない。また、３～５時間では、非飼育グループが約 28%、飼育グループが約 18%となっている。

これらの結果から、飼育の有無ではあまり差は出ないが、非飼育グループのほうがインターネットの利用時間が長いといえる。

（２）その他の成果

- 多くの人がペットに癒されていると感じている。
- ペットの効用では「ペットに癒される」「ペットといると楽しい」「ペットといると落ち着く」「ペットに話しかける」はペット好きの代表的な効用感である。ペットの種類別では猫、犬、魚の順に効用が高いことがわかった。犬の方が従順度や人懐っこさは高いが、猫の方が、効用が高いということは新しい発見であった。
- 犬の大きさによっての効用の違いで、特に差が顕著なのは「ペットは役に立つ」「ペットといる時間が長い」であった。「ペットは役に立つ」「ペットといる時間が長い」は大型犬が、小型、中型犬にくらべ否定的効果であった。これらから、小型犬・中型犬の方が、役に立ち度が高く、一緒にいる時間が長いことがわかる。「ペットに話しかける」「ペットといる時間が長い」「といった設問では、小型犬が特に効用が高い。
- 学生の現在住んでいる住宅は一人暮らしが約 66%、実家暮らしが約 34%と一人暮らしの学生が多い。
- 実家暮らしでの飼育状況は、飼育しているのを現飼育とし、以前飼っていたことがあるを前飼育、飼ったことがないが非飼育とした。そこで現飼育が約 49%、前飼育が約 34%、非飼育が約 17%となった。全体的に現飼育・前飼育と飼育経験がある人が多いことがわかる。
- SNS の利用回数が 5 回以上のグループで、ペットの話で盛り上がると答えた人は約 49%、ややペットの話で盛り上がると答えた人は約２３%と約７割のひとがペットの話で盛り上がると答えている。

第２章 調査研究の成果

２．１　調査回答者の概要

文教大学湘南校舎の女子学生のみに回答を求めたため、複数の授業で回答を依頼した。「コンピュータと通信」、「時事英語B」、「出版論」、「藤掛ゼミ」、「村井ゼミ」「その他」で、調査票を回答し、その場で回答してもらい、回収した。

なお回答標本は無作為抽出で作成してはいないために、母集団から見て標本に偏りを生じる可能性がある。そこで回答の分布を、表２－１－１で確認しておく。表２－１－１の学年別の分布では、２年生が最も多く約４２％、次いで、３年生約３９％、１年生約１０％、４年生が約９％という結果になっている。これらの偏りは、回答者全体の分布には、それなりの影響を与える可能性があり、解釈時には注意が必要である。しかし、クロス集計やグループの平均などの層化を行った集計では、影響が限定されると考えられる。

表２－１－１ 回答者と母集団の比較

	１年	２年	３年	４年	計
回答者	8.7 (12)	40.6 (56)	42.8 (59)	7.2 (10)	100.0 (138)
湘南キャンパス学生	27.4 (963)	26.2 (919)	22.4 (786)	24.1 (845)	100.0 (3513)

(注)母集団は湘南キャンパス２０１０．０９末時点である。

表２－１－２ 回答者と母集団の比較

	男性	女性	無回答	計
回答者	37.3 (52)	60.9 (84)	1.4 (2)	100.0 (138)
湘南キャンパス学生	51.6 (1814)	48.4 (1699)		100.0 (3513)

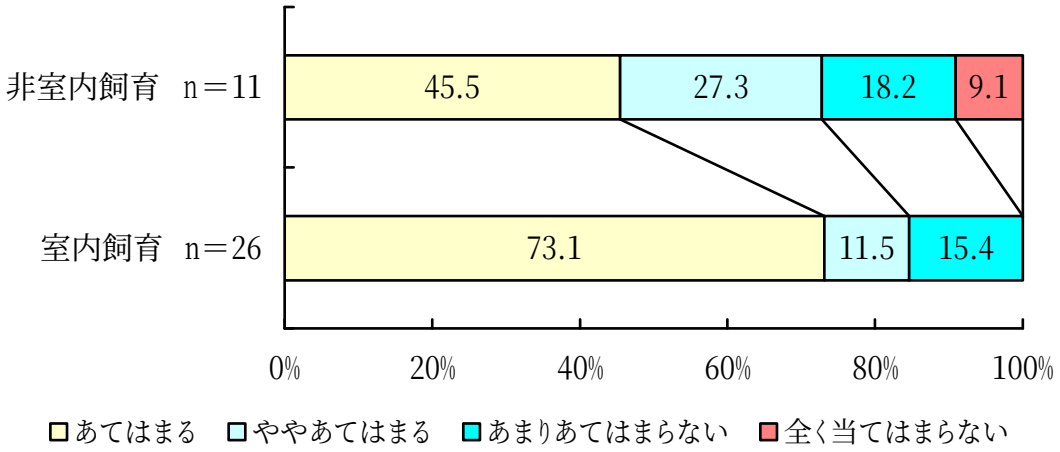
(注)母集団は湘南キャンパス２０１０．０９末時点である。

２．２ペットと癒し

（１）ペットの癒し

（a）室内飼育とペットの癒し

図２－２－１　　室内飼育とペットに癒されるか

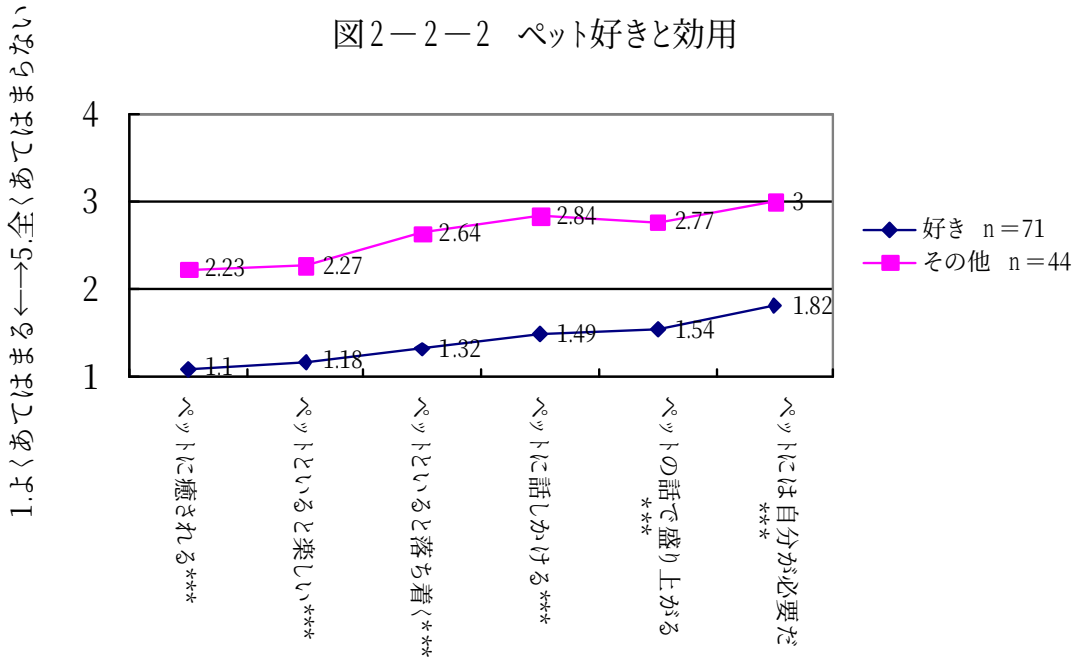


室内飼育グループで癒される、やや癒されると答えた人は約８割弱、非室内飼育グループでは約７割強と両グループともに多くの人がペットに癒されていると感じている。室内飼育グループであまり癒されないのは約 15%、全く癒されないと答えた人がいないのに対し、非室内飼育グループはあまり癒されないのは約 18%、全く癒されないの人が約９％いる。これらの結果から室内飼育の人のほうがペットに癒されている人が多くいることがわかり、仮説であるペットを飼うことによって癒しを得ていることが証明できる。有意確率は 0.213 と有意差は見られない。

（b）ペットの好き嫌いと効用

ペットの好き嫌いの質問をしており、「好き」、「その他」の２つのペット好きのグループを作り、ペットからの効用にどのような違いが出るかを集計した。その他のグループとは、ペットをとても好きと答えた以外の（やや好き、どちらでもない、やや嫌い、嫌い）と答えた人のグループとする。ペットの好き嫌いによって、ペットの効用に違いはあるのだろうか。集計結果を図２－２－２に示す。なおペットの効用は、「１．よくあてはまる」～「５．全くあてはまらない」までの５段階で回答を得ており、各グループの平均値を求めて比較している。グラフは「好き」のグループの値が小さい（よくあてはまる）順に左から配列されている。

図２－２－２　ペット好きと効用



ペット好きの方がどの効用感も有意差が見られ、高いことがわかる。その中でも、「ペットに癒される」「ペットといると楽しい」「ペットといると落ち着く」「ペットに話しかける」はペット好きの代表的な効用感である。特に「ペットに話しかける」という設問でペットが好きというグループの効用感が高いことから、仮説でのペットを相手に話すことで、対人関係の疲れが癒されることも多いということが証明できるのではないか。

仮説から、「ペットには自分が必要だ」という設問でペットを通して，自己の存在価値を高めるという仮説、「ペットの話で盛り上がる」という設問からペットを媒介として他者とのコミュニケーションが良好になるという仮説を証明することができる。

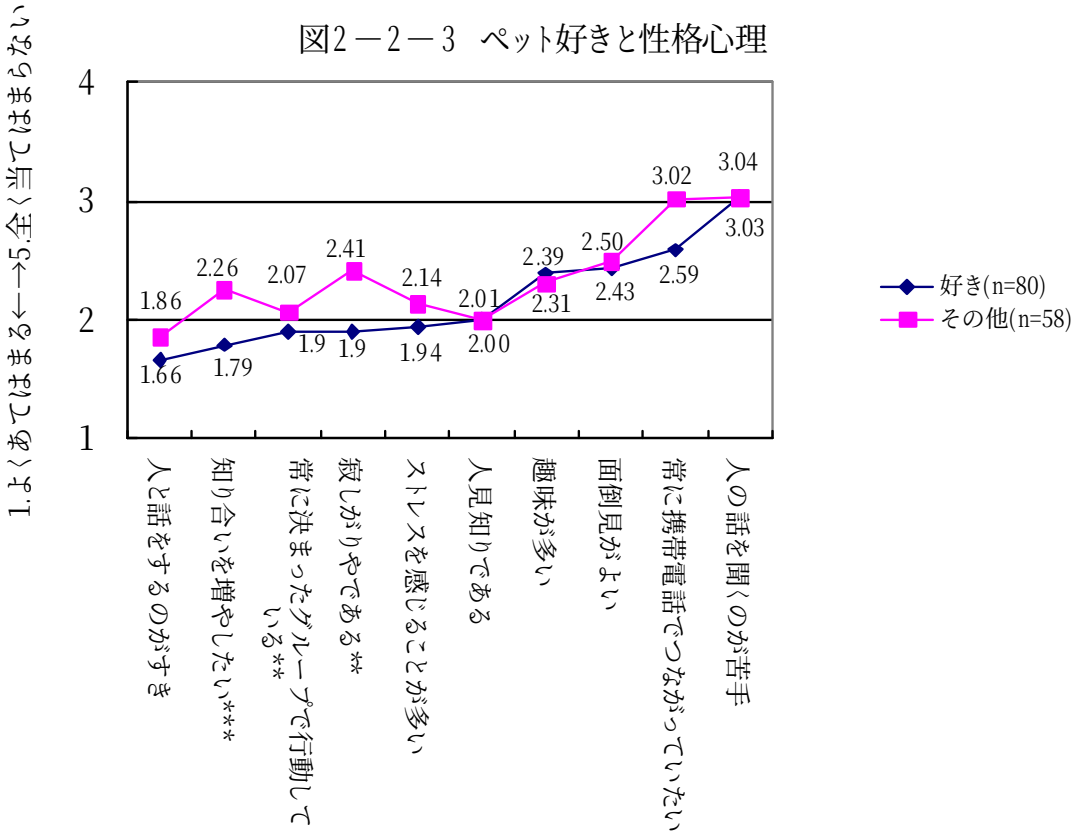
（ｃ）飼育の有無と自己の状況

その他のグループとは、ペットをとても好きと答えた以外の（やや好き、どちらでもない、やや嫌い、嫌い）と答えた人のグループとする。図２－２－３も各グループの平均値を求めて比較している。

「知り合いを増やしたい」「常に決まったグループで行動している」「寂しがりやである」に有意差が見られた。全般には、ペットが好きグループとペットがその他グループ間には大きい差がない。しかし、ペットが好きグループの方が、該当する度合いが高い。また、「人と話をするのが好き」「知り合いを増やしたい」「常に決まったグループで行動している」「寂しがりやである」「ストレスを感じることが多い」「人見知りである」でもペット好きのグループに該当性が見られた。これらから、ペット好きの人は、誰かとコミュニケーションをとっていたいという感情がペット

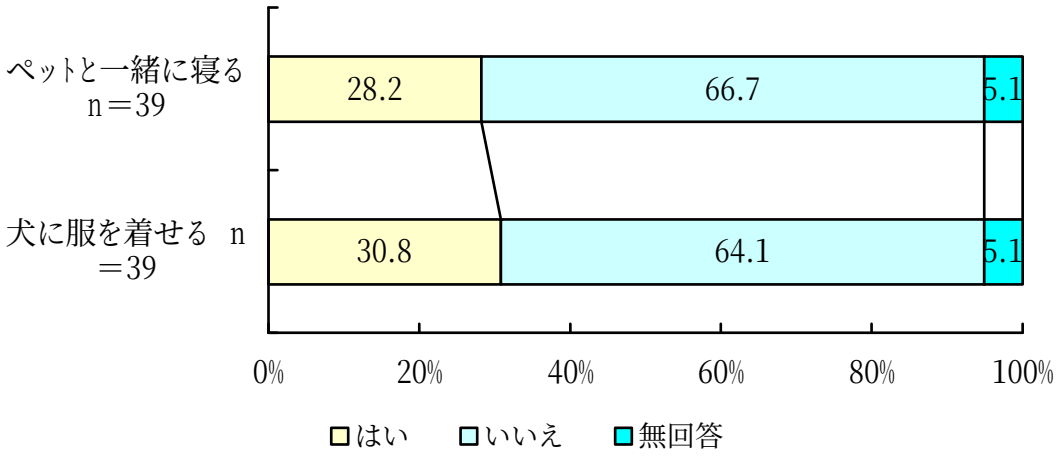
嫌いよりたかいのではないか。「知り合いを増やしたい」「趣味が多い」「面倒見がよい」では両グループ間に差が現れたが、「常に携帯電話で人とつながっていたい」「人の話を利くのが苦手」は両グループともに数値が高く、該当しなかった。

図2－2－3　ペット好きと性格心理



（d）犬の飼育

図２－２－４　　ペット (犬)の擬人化

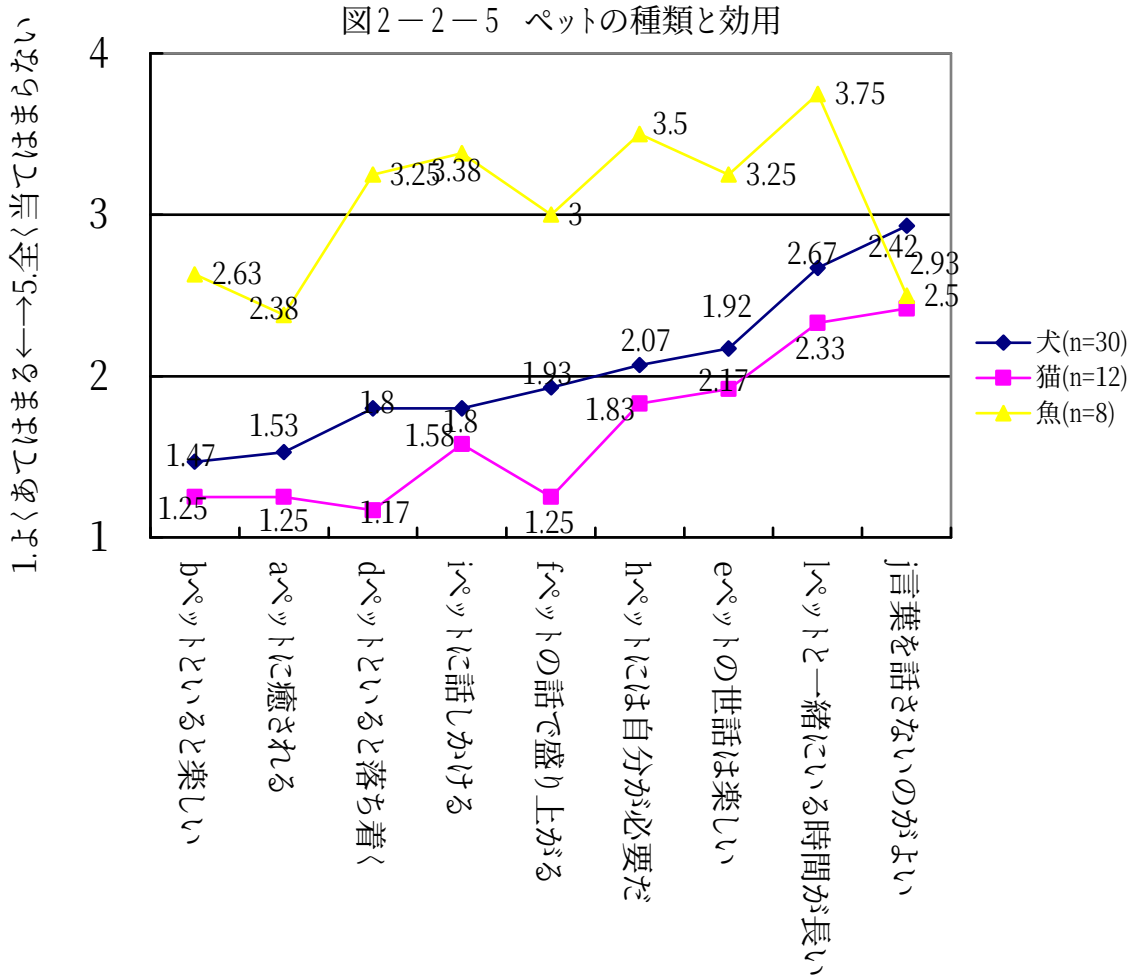


どの設問もはいと答えた人が約 28%～31%とかなり多かった。現在では、トリマーやペット用

品が充実している。ペットに服を着せるなどは、飼育者の自己満足ではないか。ペットを人間同等に扱っていることがわかる。よって、ペットが擬人化されているということがわかる。

（e）ペットの種類と効用

図２－２－５　ペットの種類と効用



「犬」、「猫」、「魚」の３つのペットの種類グループを作り、ペットからの効用にどのような違いが出るかを集計した。ペットの種類によって、ペットの効用に違いはあるのだろうか。集計結果を図２－２－５に示す。なおペットの効用は、「１．よくあてはまる」～「５．全くあてはまらない」までの５段階で回答を得ており、各グループの平均値を求めて比較している。グラフは「犬」グループを（よくあてはまる）順に左から配列されている。

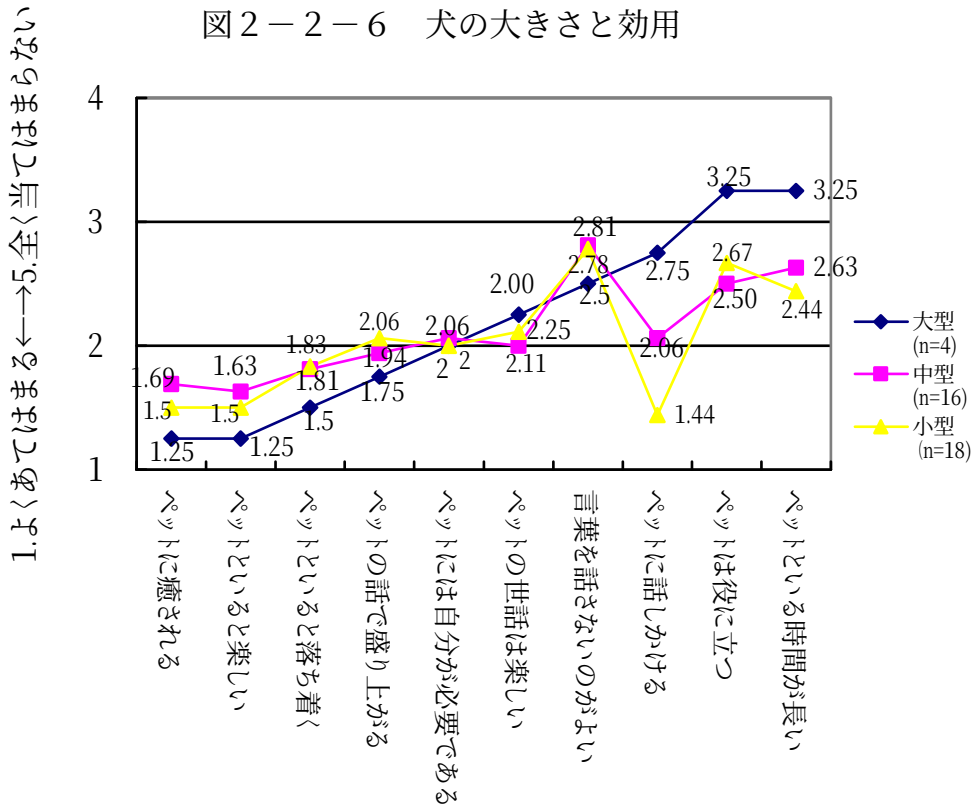
有意差のある効果は、a.b.c.d.e.f.g.h であった。

全般には、魚グループが、否定的効用が高いことがわかる。犬・猫は肯定的効果が高い。また猫、犬、魚の順に効用が高いことがわかる。魚のグループは「ｌペットと一緒にいる時間が長い」「ｃペットは役に立つ」「ｈペットには自分が必要だ」とあまり感じていないことがわかる。次に猫のグループでは「ａペットに癒される」「ｂペットといると楽しい」「ｄペットといる

と落ち着く」「ｆペットの話で盛り上がる」「ｇ家族の一員である」などの効用が強く感じられている。また、犬のグループでは「a ペットに癒される」「b ペットといると楽しい」などの効用が強く感じられている。特に顕著な差は「ｊ言葉を話さないのがよい」では、犬のグループが 2.93 と否定的効用であるのに対し、猫と魚は約 2.5 と犬より効用が高いことがわかる。仮設を立てる段階では犬の方が猫より効用が高いと思っていたが、多くの効用で猫の方が高いことに驚いた。犬の方が従順度や人懐っこさは高いが、猫の方が、効用が高いということは新しい発見であった。

（ｆ）犬の大きさと効用

図２－２－６　犬の大きさと効用



「ペットに癒される」「ペットといると楽しい」「ペットといると落ち着く」「ペットの話で盛り上がる」は全グループともに上位にあり、代表的な効用である。「ペットは役に立つ」「ペットといる時間が長い」は全グループともに上位にあり、代表的な否定的な効用である。特に差が顕著なのは「ペットは役に立つ」「ペットといる時間が長い」であった。「ペットは役に立つ」「ペットといる時間が長い」は大型犬が、小型、中型犬にくらべ否定的効果であった。これらから、小型犬・中型犬の方が、役に立ち度が高く、一緒にいる時間が長いことがわかる。「ペットに話しかける」「ペットといる時間が長い」「といった設問では、小型犬が特に効用が高い。「ペットに癒され

る」では、仮説の段階では大型犬のほうが効用感が高いと考えていた。結果をみると大型犬、小型犬、中型犬の順に効用感が高いことがわかり、仮説を証明することができる。

２．３　家族とペット

（１）ペットの飼育状況

（a）学生の住宅

学生の現在住んでいる住宅は一人暮らしが約 66%、実家暮らしが約 34%と、一人暮らしの学生が多い。

（b）住宅での飼育状況

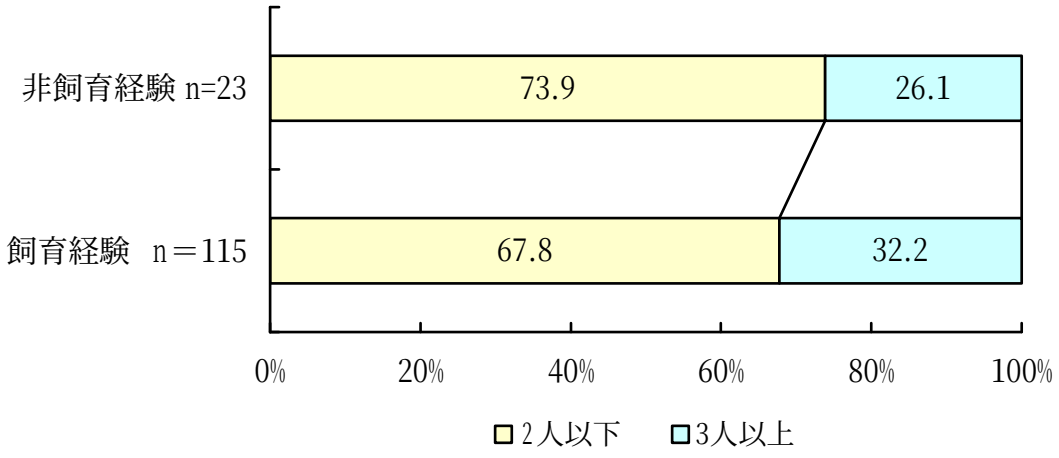
一人暮らしの飼育状況は飼育している人が 5.3%、飼育していない人が 94.7%と、圧倒的に一人暮らしでの飼育が少ない。

実家暮らしでの飼育状況は、飼育しているのを現飼育とし、以前飼っていたことがあるを前飼育、飼ったことがないが非飼育とした。そこで現飼育が約 49%、前飼育が約 34%、非飼育が約 17%となった。全体的に現飼育・前飼育と飼育経験がある人が多いことがわかる。

そこでここでは現飼育と前飼育・非飼育という今の状況の飼育の有無について調査を行うため、現飼育は飼育グループ、前飼育・非飼育は非飼育グループに分け、あくまで、現在の飼育状況で飼育と非飼育グループに分け調査を行った。

（c）飼育兄弟人数

図２－３－１　　飼育と兄弟人数



飼 育

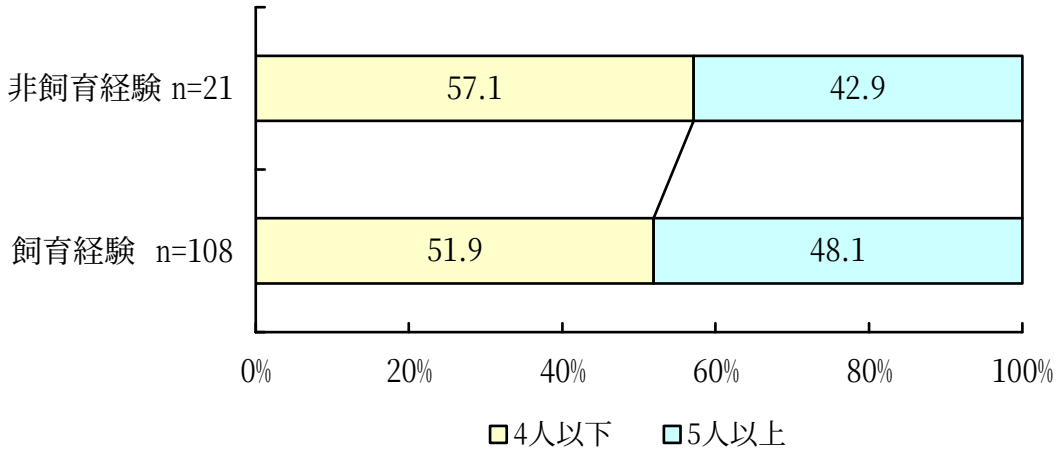
経験がなしのグループと飼育経験がありグループのでは、兄弟の人数に有意差が見られなかった。両者ともに 2 人以下グループが多く、飼育経験なしでは約 74%、飼育経験ありは約 68%となっ

ている。

仮説では、飼育経験がない人は「3 人以上」の兄弟の人に多いと考えていたが、この結果から少しの差ではあるが、飼育経験あり「3 人以上」の兄弟の人が約 32%、飼育経験なしで「3 人以上」の兄弟の人が約 26%と約６%少なくなっていた。両グループ間には有意差がない。子供が３人以上だとペット飼育家庭が少ないという仮説は証明することができない。

（d）飼育と家族人数

図２－３－２　　飼育と家族人数



飼育経験グループと非飼育経験グループのでは、飼育経験に有意差が見られなかった。両グループ共に、家族が 4 人以下が多く、非飼育経験グループで「4 人以下」は約 57%、飼育経験のグループでは約 52%となっている。この結果から少しの差ではあるが、非飼育経験グループの家族「5 人以上」が約 43%、飼育経験グループの家族「5 人以上」は約 48%と、少しの差ではあるが、飼育経験グループの家族「5 人以上」が多いことがわかる。

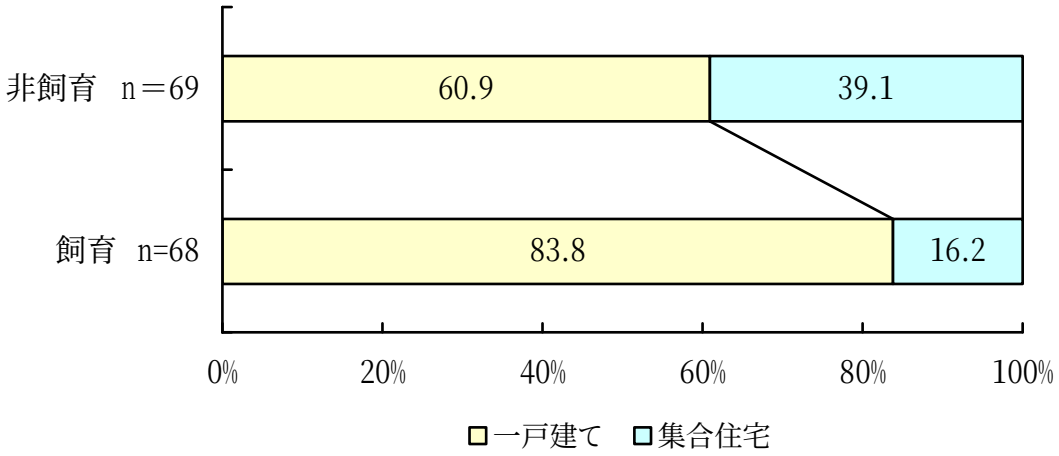
両グループ間には有意差がない。

（e）現在の飼育状況と住居形態

現在の飼育状況で、飼育・非飼育グループに分けた。

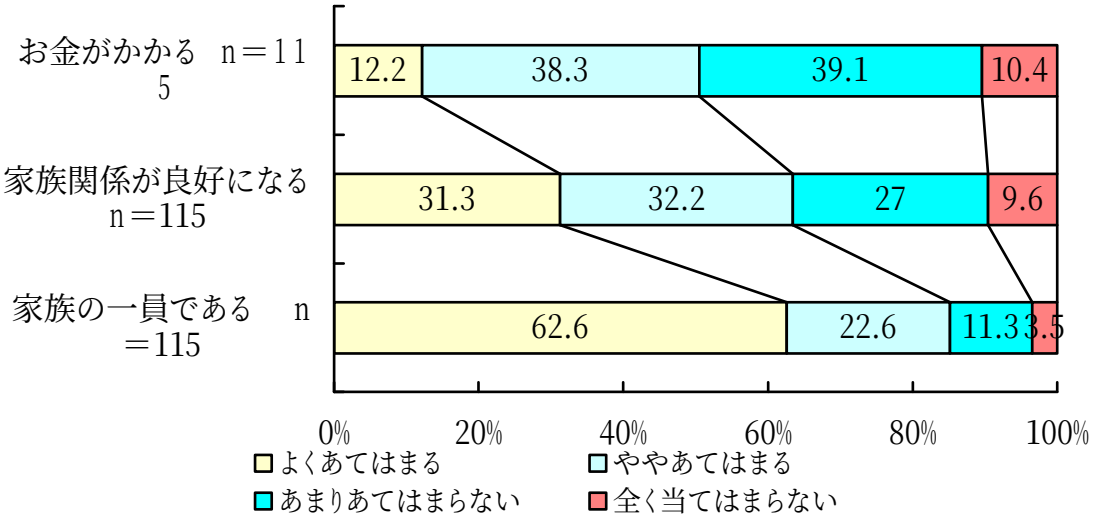
現非飼育では、一戸建てが約 61%と集合住宅が約 39%、現飼育では一戸建てが約 84%、集合住宅が約 16%となっている。現飼育グループでは、一戸建てに住んでいる人が圧倒的に多いことがわかる。よって、仮説であった、一戸建ての方が飼育する人数が多いということが言える。0.278 と有意差が見られなかった。

図２－３－３　　飼育と住居形態



（ｆ）ペットと家族

図２－２－４　　ペットと家族

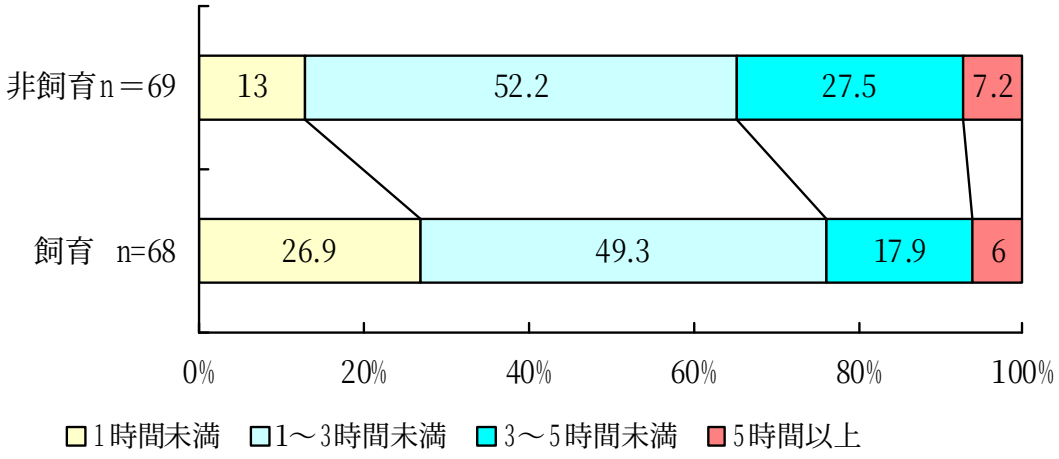


「家族の一員である」「家族関係が良好になる」は効用感があることがわかる。また、「お金がかかる」はあまり気にしていないことが分かる。特に「家族の一員である」は効用がみられる、よくあてはまる・ややあてはまるを足すと 80%以上を超えており大半がペットを家族の一員とみなしている。また、「家族関係が良好になる」から、よくあてはまる・ややあてはまるで約 60%と効用が見られ、ペットは家族間の関係をとりもつということが言えるのではないか。

２．４　ペットとコミュニケーション

（a）現在の飼育とインターネット利用時間

図２－４－１　　飼育とインターネット利用時間



現 在の飼育状況とし、飼育・非飼育グループに分ける。非飼育と現在非飼育を飼育グループ、現飼育を飼育グループと分けた。

飼育では、インターネット利用時間には有意差がない。

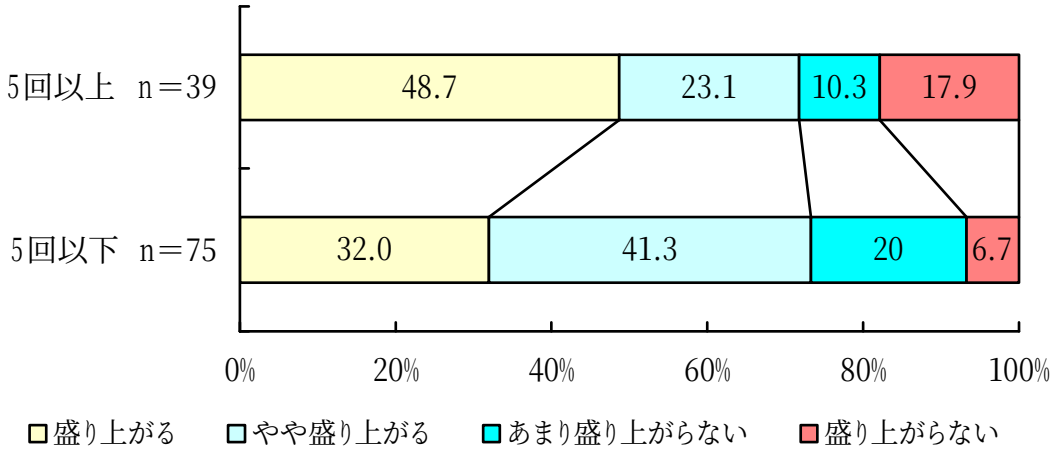
どのグループも１～３時間が約 49%～約 52%と最もおおくなっている。１時間未満では飼育グループが約 27%、非飼育グループが 13%と飼育グループが多いことがわかる。両グループ共に、５時間以上では、あまり差はない。また、３～５時間では、非飼育グループが約 28%、飼育グループが約 18%となっている。

これらの結果から、飼育の有無ではあまり差は出ないが、非飼育グループのほうがインターネットの利用時間が長いといえる。

（b）SNS の利用回数とペット話の盛り上がり

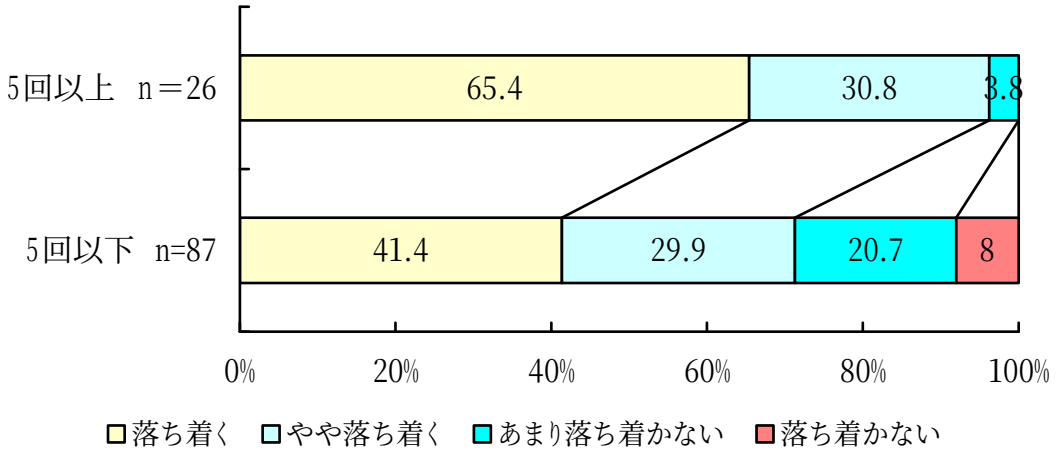
SNS の利用回数が 5 回以上のグループで、ペットの話で盛り上がると答えた人は約 49%、ややペットの話で盛り上がると答えた人は約２３%と約７割のひとがペットの話で盛り上がると答えている。また５回以下の人はペットの話で盛り上がると答えた人は 32%、ややペットの話で盛り上がると答えた人が約 41%と、5 回以上のグループに比べやや当てはまると答えた人が多いことがわかる。また、あまりペットの話で盛り上がらない人が 20%、全くペットの話で盛り上がらない人が約７%と、5 回以上のグループに比べ多いことがわかる。有意差は 0.31 と見られなかった。

図２－４－２　　SNSの利用回数とペット話の盛り上がり



（ｃ）メールの回数とペットによる落ち着き

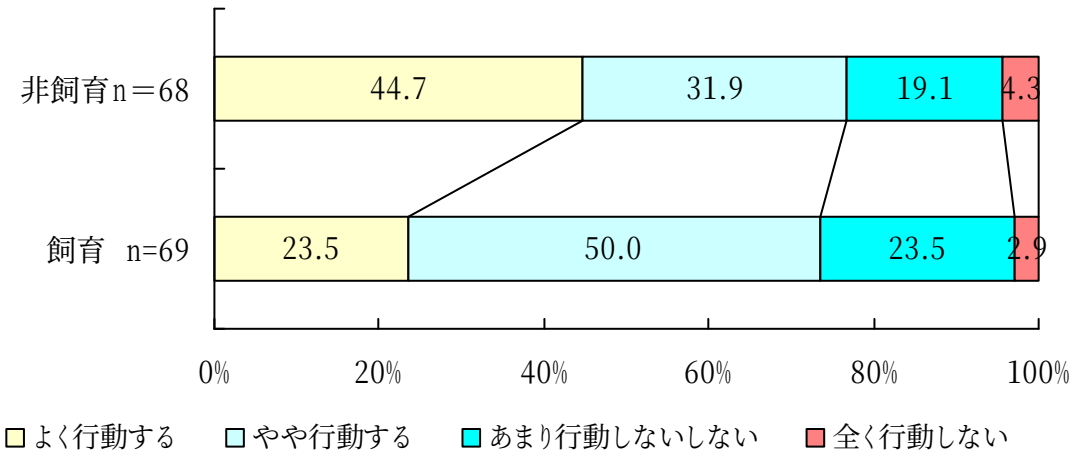
図２－４－３　　メールの回数とペットによる落ち着き



メールの回数が５回以上のグループでペットといると落ち着くと答えた人は約 65%、やや当てはまると答えた人が約 31%と５回以上のグループのひとは約９割程の人が落ち着く、と答えている。また、５回以下のグループの人もあてはまる、やや当てはまるは、多いものの、あまり当てはまらないが約 21%全く当てはまらないが８％と、５回以上のグループに加え、あまり落ち着かない、全く落ち着かないと答えた人が多い。有意差は見られない。

（d）飼育とグループ行動

図２－４－４　　飼育とグループ行動



現在の飼育状況から、飼育・非飼育グループに分ける。非飼育と現在非飼育を飼育グループ、現飼育を飼育グループと分けた。

現在の飼育の有無では、常にグループ行動するかということには有意差がない。非飼育グループでよく行動するは約 45%と最もおおくなっている。非飼育グループでは、よく行動するは約 39%、飼育グループは最も少なく約 24%である。また、飼育グループの、やや行動するが約 50%と差が顕著に現れた。

よって、仮説では飼育者はよく行動すると考えていたが、その様な結果はあまり当てはまらず、よく行動する非飼育グループの方がグループ行動していることがわかった。この結果よりグループでの行動意識は低く、個人での行動があることが分かる。

第３章　まとめと今後の課題

調査の結果、現在、現飼育が約 49%、前飼育が約 34%、非飼育が約 17%となった。住宅形態では、一戸建て住宅での飼育率が高かった。ペットの種類は犬が最も多く、次に多いのは猫である。ペットの効用については、「ペットに癒される」「ペットといると楽しい「ペットといると落ち着く」「ペットに話しかける」は代表的な効用感であった。それに加え、ペット好きと効用からは、ペット好きの方がどの項目も有意差が見られ、効用が高いことがわかる。その中でも、「ペットに癒される」「ペットといると楽しい」「ペットといると落ち着く」「ペットに話しかける」はペット好きの代表的な効用感である。特に「ペットに話しかける」という設問でペットが好きというグループの効用感が高いことから、ペットを相手に話すことで、対人関係の疲れが癒されることも多いということが証明できるのではないか。また、「ペットには自分が必要だ」という設問でペットを通して，自己の存在価値を高めるという仮説を証明することができる。

ペットと家族関係を見てみると、「家族の一員である」が約 80%以上を超えており大半がペットを家族の一員とみなしている。また、「家族関係が良好になる」では約 60%と効用が見られ、ペットは家族間の関係をとりもつということが言え、ペットの家族化が裏付けられると考えられる。ペットの種類別では猫、犬、魚の順に効用が高いことがわかった。犬の方が従順度や人懐っこさは高いが、猫の方が、効用が高いということは新しい発見であった。

その他に、ペットとコミュニケーションの調査からは、「インターネットの利用と飼育」では、飼育の有無ではあまり差は出ないが、非飼育グループのほうがインターネットの利用時間が長いといえる。また、「SNS と飼育」「一日のメール回数と飼育」の調査からは、両者共に有意差が見られず、SNS とメール回数は、飼育の有無に関係がないことがわかった。しかし、「SNS とペットの話の盛り上がり」の調査では、SNS の利用回数が 5 回以上のグループで、ペットの話で盛り上がると答えた人は約 49%、ややペットの話で盛り上がると答えた人は約２３%と約７割のひとがペットの話で盛り上がると答えている。よってペットを媒介として他者とのコミュニケーションが良好になるペットの話という共通の話題でコミュニケーションをとっていることがわかる。

今後の課題としては、回答者にわかりやすく設問の説明などを加える必要性があった。また、サンプル数も飼育している人のサンプル数を増やすため、より多くの人に調査を行えばよかった。

参考文献

ブルース・フォーグル　「新ペット家族論」ペットライフ社

森裕司・奥野卓司「ペットと社会」岩波書店、2008.12

林良博　森裕司　「動物観と表象」岩波書籍　2008.12

香山リカ「イヌネコにしか心を開けない人たち」幻冬舎新書　2008.01

ペットについての調査

情報学部　広報学科　中村　遼

「社会調査□」のための調査です。無記名ですので率直にお答えください。

問１　あなたの現在のお住まいはどれですか（１つに○）ｎ＝１３８

1.　一人暮らし（アパート･下宿など）　65.9	２．実家→**問５へ**　34.1

問２　あなたは現在の住まいでペットを飼育していますか（１つに○）ｎ＝９４

１．飼育している　5.3	２．飼育していない→**問５へ**　94.7

問３　ペットの種類はなんですか（**あてはまる全て**に○）ｎ＝５

１．犬　40.0	２．猫　0.0	３．ハムスター　0.0
４．鳥類　0.0	５．魚類　20.0	６．その他　40.0

問４　ペットは何匹ですか（**１つ**に○）ｎ＝５

１．１匹　40.0	２．２匹　40.0	３．３匹　0.0	４．４匹以上　20.0

問５　あなたの実家ではペットを飼育していますか（１つに○）ｎ＝１３８

１．飼育している　49.3	２．飼育していたことがある→**問１２へ**　34.1
３．飼育したことがない→**問１３へ**　16.7	

問６　ペットの種類はなんですか（**あてはまる全て**に○）ｎ＝８５

１．犬　57.4	２．猫→**問９へ**　27.9	３．ハムスター→**問９へ**　2.9
４．鳥類→**問９へ**　5.9	５．魚類→**問９へ**　19.1	６．その他→**問９へ**　11.8

問７　ペットの大きさはどれ位ですか（**１つ**に○）ｎ＝３９

１．大型　10.3	２．中型　41.0	３．小型　46.2	４．無回答　2.6

問８ペットをどのように飼っていますか。次の各項目ごとにお答えください（**１つ**に○）ｎ＝３９

	はい	いいえ	無回答
a.　室内で飼育している	66.7	28.2	5.1
b.　ペットに服を着せる	30.8	64.1	5.1
c.　ペットと一緒の布団で寝る	28.2	66.7	5.1
d. 高い食べ物を与えている	5.1	89.7	5.1

問９　　ペットは何匹ですか（**１つ**に○）**ｎ＝６８**

１．１匹　57.4	２．２匹　19.1	３．３匹　5.9	４．４匹以上　17.6

問１０　　ペットの世話は主に誰がしていますか（**１つ**に○）**ｎ＝６８**

１．自分　8.8	２．他の家族　83.8	３．その他　7.4

問１１　　ペットの１ヶ月の飼育費用はいくらですか（**１つ**に〇）**ｎ＝６８**

１．1000 円未満	14.7	２．1000～3000 円未満	19.1
３．3000 円～5000 円未満	5.9	４．5000 円～8000 円未満	13.2
５．8000 円～10000 円未満	7.4	６．10000 円以上	7.4
７．わからない	32.4		

問１２あなたのペットの受け止め方ついて質問します。（**１つ**に〇）**ｎ＝１１５**

	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	無回答
a．ペットに癒される	61.7	25.2	11.3	1.7	0.0
b．ペットと居ると楽しい	56.5	29.6	11.3	2.6	0.0
c．ペットは役に立つ	9.6	22.6	47.8	20.0	0.0
d．ペットと居ると落ち着く	47.0	29.6	17.4	6.1	0.0
e．ペットの世話は楽しい	27.8	35.7	29.6	7.0	0.0
f．ペットの話で盛り上がる	37.4	34.8	17.4	10.4	0
g．家族の一員である	62.6	22.6	11.3	3.5	0.0
h．ペットには自分が必要だ	28.7	27.8	31.3	12.2	0.0
i．ペットに話かける	42.6	27.0	17.4	13.0	0.0
j．言葉を話さないのがよい	15.7	19.1	46.1	19.1	0.0
k．お金がかかる	12.2	38.3	39.1	10.4	0.0
l．ペットと一緒の時間が長い	12.2	20.0	48.7	18.3	0.9
m．家族関係が良くなる	30.4	32.2	27.0	9.6	0.9

□問１４へ進んでください

問１３　　ペットを飼育しない理由は何ですか（**あてはまるもの全て**に〇）**ｎ＝３５**

１．家族または自分が嫌いだから	17.1	２．死ぬとかわいそうだから	22.9
３．住宅事情	11.4	４．自分または家族が動物アレルギー	14.3
５．その他	0.0	６．十分に世話ができないから	28.6
７．特になし	5.7		

問１４　あなたはペットが好きですか（１つに○）ｎ＝１３８

１．とても好き	58.0	２．やや好き	27.5	３．どちらでもない	12.3
４．やや嫌い	1.4	５．とても嫌い	0.7		

問１５　あなたについてお尋ねします（１つに○）ｎ＝１３８

	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
a. ストレスを感じる事が多い	28.3	45.7	21.7	4.3
b. 人と話をするのが好き	41.3	44.9	11.6	2.2
c. 常に携帯電話で友人と繋がっていたい	10.1	25.4	42.0	22.5
d. 人の話を聞くのが苦手	5.8	10.9	57.2	26.1
e. 寂しがりやである	27.5	40.6	24.6	7.2
f. 知り合いを増やしたい	27.7	48.9	20.4	2.9
g. 常に決まったグループで行動することが多い	33.3	40.6	21.7	4.3
h. 人見知りである	34.8	34.8	25.4	5.1
i. 趣味が多い	16.7	39.1	36.2	8.0
j. 面倒見がよい	11.6	39.9	39.9	8.7

問１６　あなたは一日にどのくらいネットを利用しますか（１つに○）ｎ＝１３８

１．1時間未満	19.6	２．１～３時間未満	50.0	３．３～５時間未満	22.5
４．５時間以上	6.5	５．無回答	1.4		

問１７　あなたは一日に何回 SNS を利用していますか（１つに○）ｎ＝１３８

１．利用しない	39.1	２．１～5 回	29.0	３．6～10 回	17.4		
４．11～15 回	5.1	５．16～20 回	3.6	６．20 回以上	5.1	７．無回答	0.7

問１８　あなたは一日に何通メールをしますか（１つに○）ｎ＝１３８

１．５通以下	34.3	２．６～１０通	43.1	３．１１～１５通	12.4		
４．１６～２０通	3.6	５．２１～２５通	4.4	６．２６通以上	1.5	７．無回答	0.7

Ｆ１　あなたの性別ｎ＝１３８

１．男性	37.7	２．女性	60.9	３．無回答	1.4

Ｆ２　学年ｎ＝１３８

１．1年	8.7	２．２年	40.6	３．３年	42.8	４．４年	7.2	５．無回答	0.7

F３　実家の住居形態はなんですか（１つに○）

１．一戸建て	71.7	２．集合住宅	27.5	３．無回答	0.7

F４　あなたを含めたの兄弟人数ｎ＝１３８

1.　１人	12.3	２．２人	56.5	３．3 人	23.9
４．4 人	4.3	５．5 人以上	2.2	６．無回答	0.7

F５　あなたを含めたの家族の人数ｎ＝１３８

１．３人未満	7.2	２．4 人	42.0	３．５人	23.9		
４．６人	11.6	５．７人	6.5	６．8 人以上	2.2	７．無回答	6.5

調査は以上です。ご協力ありがとうございました。